

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北海道)		商店街（代表者）	・観光のオンシーズンに向かうため、今後については良くなる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・景気が少しずつ持ち直していることに伴って、海外旅行も含めて国内客の旅行需要が増えてくる。特に北海道は人気が高まっており、入込数が増加傾向にあることから、今後は売上が徐々に回復することになる。
		旅行代理店（従業員）	・道内7空港の一括民間委託の動きが進むなか、新千歳空港の極集中から地方への分散による道内観光の活性化に向けた動きが徐々にみられるようになってきていることから、夏季繁忙期における外国人観光客も含めた観光需要の増加を期待している。
		商店街（代表者）	・夏に向けて商店街や地域のイベントが多くなるため、今後は多くの人出が見込め、セールや売出しでの売上が期待できる。
		商店街（代表者）	・当商店街においては、6月に免税一括カウンターが設置され、7月にはフリーWi-Fiの整備が完了することから、国内客及び外国人観光客の増加が見込め、例年以上の売上が期待できる。
		商店街（代表者）	・今後については、夏祭りなどで人の流れが活発になることが期待できる。ただ、その後の動向が気がかりである。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・当地では地元客が中心の店舗の売上がどんどん落ちており、観光客が訪れる店舗との格差が大きくなっている。当社のような30人規模の会社であっても、外国人を継続的に採用できるシステムなどが必要になってきている。
		百貨店（販売促進担当）	・本州からの観光客に加えて、外国人観光客も増加傾向にあり、これから観光のトップシーズンを迎えて、観光客の動向が景気への追い風になると期待できる。
		スーパー（店長）	・6月は5月のビール類の駆け込み需要の反動もあり、かなりの苦戦を強いられるが、買上点数や客単価の伸びがみられることから、全体的には今後も微増傾向で推移する。
		スーパー（店長）	・婦人衣料、紳士衣料を始めとして衣料品全体が一時期の不振から復調傾向にあることから、今後の売上げをけん引することになる。
		乗用車販売店（従業員）	・今後はイヤーモデルチェンジ、マイナーチェンジ、フルモデルチェンジが行われる時期となり、ある程度の販売台数が見込めるため、今よりも景気は良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・外国人観光客については、東南アジアからの団体旅行が好調に推移している。国内客については、学会、イベント、修学旅行での需要が堅調なことに加えて、個人客のネット予約が好調である。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・長期予報によると、今夏は天候に恵まれることから、前年に旅行を自粛した個人客、団体客の動きが活発になると見込める。
		旅行代理店（従業員）	・問い合わせ件数が増加していることに加えて、1件当たりの売上が増加していることから、今後の景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・6月は当地において大きなイベントが行われ、道外からの旅行者も増えるため、景気も少しは良くなる。
		タクシー運転手	・これから地域全体の景気が回復することを期待している。夏季に入ること、観光客の増加も期待できる。
		通信会社（企画担当）	・現状、各社が料金競争に走っており、抜け出せる要素がみられないものの、今後については、地域独自の客への還元施策による巻き返しが期待できる。
		美容室（経営者）	・関連商材の単価が若干ではあるが上昇しており、今後、売上が増加しそうな雰囲気がある。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・乗船予約が好調に推移しており、今後への期待が持てる。
	商店街（代表者）	・北朝鮮問題が起きているものの、日々の生活における変化もみられないことから、今後についても変わらない。	
	商店街（代表者）	・外国人観光客の入込数が増えているとの報道もあるが、通行客などの様子を見る限りあまり変化が感じられない。また、外国人観光客による消費動向も落ち着いてきていることから、今後も現在の状態が続く。	
	一般小売店〔酒〕（経営者）	・今年に入ってから、毎月、売上が苦戦しており、好転する兆しがみえないことから、今後も現在の状況が続く。	

百貨店（売場主任）	・現状、明確な兆しもみえないため、どちらともいえない状況にある。ただ、一時期低迷していた外国人観光客による消費が、ここにきて持ち直しつつあるため、化粧品や高額商材を中心に売上を伸ばすことが期待できる。一方、国内客による消費は伸び悩みを続けているため、全体的にはしばらく景気の変わらない状況が続く。
百貨店（担当者）	・中心部に新たな商業施設がオープンしたことで来客数の増加がみられるが、オープン当初と比べると動きが落ち着き始めている。また、これまで消費が大きく促進されているわけではないことから、これから景気が急回復するようなことは期待できない。
百貨店（営業販促担当）	・4月の来客数がプラスに転じ、売上もほぼ前年並みとなったことで底を打った感があった。5月はゴールデンウィーク商戦、母の日商戦と売出し企画が軒並み苦戦した。夏物の定価品に対する客の反応が悪く、バッグ、アクセサリー、家具、補聴器などの高額商材の動きに回復傾向がみられないため、今後も変わらないまま推移する。来客数が落ち込むことになれば、一層厳しくなる。
スーパー（店長）	・景気変動するような要因が見当たらないため、今後も変わらない。
スーパー（店長）	・変動する要因が見当たらないため、今後も景気は変わらない。
スーパー（役員）	・5月は天候要因に助けられた月であった。また、商材価格について、各業態で値下げ商材も発表されているが、全体的には値上げ基調にあり、酒類も10%前後の値上げが発表されていることから、今後、客の節約志向が高まることが懸念される。
コンビニ（エリア担当）	・5月の売上、来客数は観光客による部分が大きく、今後の観光客の動向がどうなるかが分からないため、景気もどうなるか分からない。
コンビニ（エリア担当）	・ゴールデンウィーク期間は天候にも恵まれ、売上、来客数共に大きく伸びたが、その後は今までどおりの状態に戻っている。条件がそろえば、売上、来客数が伸びるが、日常的には跳ね上がりのみられない状況が続いていることから、今後も景気は変わらない。
衣料品専門店（店長）	・来客数、売上共に前年実績をクリアできていないため、今後も変わらない。
衣料品専門店（店長）	・今後の気温が高めで推移すると見込まれることから、今後については重衣料が売れなくなる。
家電量販店（経営者）	・季節商材に動きはみられるものの、4Kテレビ、大型冷蔵庫などに動きがあまりみられないことから、今後についてもあまり期待できない。
家電量販店（店員）	・暑い夏が見込まれるため、今後については期待している。4Kテレビでは価格の下がった大型画面の液晶テレビがよく売れている。
乗用車販売店（経営者）	・前月と同様に、先行指数である新車受注は前年並みの水準を維持しており、この傾向は当面続く。
乗用車販売店（経営者）	・現状の動向から、今後も大きな変化がなく、現状維持のまま推移する。
乗用車販売店（従業員）	・年初の新型車効果が薄れつつあるため、これからの新型車に期待しているが、さほど多くは望めない。
乗用車販売店（従業員）	・夏場は客の購買意欲が低いため、今後についても変化はないとみられる。新型車が投入される予定もあるが、売上に反映されるのは秋になる。
自動車備品販売店（店長）	・この時期になっても冬タイヤが売れていることから、タイヤ値上げ後は反動で低迷しそうである。競合店も同様だが、一時期のように低単価商材の動きが良くなっている。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・5月のような落ち込みは存続に影響するため、これ以上の悪化は困る。人事、仕入れなどの抜本的な見直しと新たな顧客戦略の見直しが必要になってきている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格が安定していることから、今後についても変わらない。
観光型ホテル（役員）	・為替の変動までは見通せないため、現状から変化のないまま推移するとみている。ただ、朝鮮半島の動向によって今後の景気が大きく左右されることを懸念している。
旅行代理店（従業員）	・良くなる材料がない。むしろ悪くなることを懸念している。
タクシー運転手	・今後の予約状況や問い合わせ件数などから、今後も変わらないまま推移する。前年の状況と比較しても良くも悪くもならないようにみえる。

	タクシー運転手	・今後については、これといったイベントもないため、現状維持のまま推移する。	
	通信会社（社員）	・企業努力により前年並みの実績を維持するようにしているが、人材への投資や設備投資などの出費がかさんでおり、内情的には厳しさを増してきている。	
	観光名所（職員）	・観光施設の来場者数が前年を上回るペースで推移しているが、外国人観光客の恩恵にあずかる部分も多いため、引き続き動向を注視している。	
	住宅販売会社（経営者）	・金利の低い水準が続いており、これ以上下がりようがないことに加えて、株式市場も一進一退を繰り返していることから、今後も景気は変わらないまま推移する。	
	百貨店（役員）	・年度が変わってからの来客数の動向から、今後についてはやや悪くなる。	
	スーパー（企画担当）	・6月からの酒税法改正に伴う酒類の値上げを控えて、駆け込み需要が発生しているが、酒類以外の売上はさほど良くないことから、今後の酒類販売の落ち込みをほかの商材でカバーできるか不安がある。	
	スーパー（役員）	・今年もスルメイカが不漁になる見通しであることから、加工業者も含めて、地域経済全体に悪い影響が出ることが懸念される。	
	コンビニ（エリア担当）	・6月以降の酒類値上げの影響が懸念される。現在も低価格の新ジャンルのビール類は価格によって売上が大きく左右されるなど、消費者の価格に対する反応が過敏になっている面がある。	
	コンビニ（オーナー）	・働き方改革の推進などにより、残業が減少することになれば、残業手当が減り、給与も減ることになる。食品や衣料品を節約しているという客の声も多く、今後についてはやや悪くなる。	
	その他専門店〔造花〕（店長）	・様々な業種で商品価格の上昇が見込まれるため、今後の景気はやや悪くなる。	
	高級レストラン（スタッフ）	・6月のボーナス時期以降、多くの業態では客足が元に戻るかとみているが、専門料理店については景気低迷が続く。	
	高級レストラン（スタッフ）	・今後の観光客の増加が見込めないことから、景気はやや悪くなる。	
	旅行代理店（従業員）	・海外情勢が不安定で、需要が伸びにくい状況にあることから、今後についてはやや悪くなる。	
	タクシー運転手	・例年であれば観光シーズンを迎えて、観光客の増加を期待するところであるが、前年の台風被害を受けた主要道路が完全復旧に至っていないため、観光客が当地を避けることを懸念している。	
	タクシー運転手	・人口が減っていることもあり、売上が好転する材料に乏しい。当地全体の景気にもあまり動きがみられない。	
	観光名所（従業員）	・前年の北海道新幹線の開業効果が徐々に収束してきており、そのほかのプラス要素も見当たらないことから、今後についてはやや悪くなる。	
	パチンコ店（役員）	・夏の需要期に向けてのビール類の値上げはタイミングが悪すぎる。また、製造業では燃料費の変動が収まらない限り、今後の見通しが立てにくい。これらのことから、今後についてはやや悪くなる。	
	美容室（経営者）	・極端な変化ではないが、緩やかに売上が減少していることから、今後についてはやや悪くなる。	
	住宅販売会社（経営者）	・現状、分譲マンション市場において景気が上向くような兆候がほとんどみられない。値下げを行う分譲マンションも多く、今後、価格競争が徐々に激化してくることが懸念される。	
	×	コンビニ（エリア担当）	・漁業の不振など、主要産業の景気回復が見込めないため、景気の悪い状況は今後も継続する。また、競合店の出店もあり、業界内での売上の取り合いも激化することになる。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-	
	食料品製造業（従業員）	・玉ねぎについて、前年の北海道での台風の影響と佐賀県でのペト病の発生により、今年の仕入への影響を懸念していたが、前年と変わらない価格で取引先から仕入れることができるようになったため、今後についてはやや良くなる。	
	建設業（経営者）	・今後は手持ち工事が積み上がると同時に施工も最盛期に入るため、景気はやや良くなる。ただ、作業員と一部の施工機械の不足が懸念される。	

	輸送業（営業担当）	・北海道では4～5月にかけて日照時間が多く、降水量も少なかったため、今後の農作物の生育が良好に推移することが期待できる。また、牧草の生育も順調で、北海道産生乳の道外輸送も都府県での減産を補うため、増量される見込みとなっている。これらのことから、今後の景気はやや良くなる。
	通信業（営業担当）	・現状の需要予測から、今後の販売量は底堅く推移することになる。また、受注単価が上昇傾向にあることから、今後の景況感はやや良くなる。
	金融業（従業員）	・公共投資の増加に加えて、観光のトップシーズンを迎えるなかで外国人観光客による消費拡大が道内景気を一層押し上げることになるため、景気はやや良くなる。
	食料品製造業（従業員）	・今後について、現状からは特に良くなる要素も悪くなる要素も見当たらない。
	家具製造業（経営者）	・外国人観光客がそれなりに当地を訪れているが、全体的には街のにぎわいが失われつつある。
	建設業（従業員）	・官民間問わず、建築工事の発注が上半期に集中している傾向がみられ、下半期にめぼしい案件がなくなることを懸念している。
	建設業（従業員）	・安定した公共工事と民間建築における設備投資計画の増加により、人員が不足している。この状況はしばらく続く。
	輸送業（支店長）	・夏場を迎えても本州からの移入や輸入雑貨類が堅調に推移するとみられるが、特に本州向けのスポット輸送の引き合いが前年と比べて少ないことから、全体ではプラスマイナスゼロで推移することになる。
	司法書士	・個人の所有する土地や建物について、空き地や空き家が目立ち始めており、不動産売買の動きや建物の新築などに関する積極的な動きがみられないことから、今後も景気は変わらない。
	司法書士	・当地は6月に多くのイベントが開催され、飲食関係やホテルなどににぎわいが出てくるが、一般の人が景気回復を実感できるほどの波及は見込めない。住宅の新築など、多くの業種が活発化するような動きが見当たらない現状から、今後も景気は変わらないまま推移する。
	コピーサービス業（従業員）	・親会社からの締め付けが強くなってきている客先が多く、当分はこの企業もグループ全体の業績を安定させるため、設備投資を抑える傾向が続くとみられる。ただ、働き方改革を進めるための投資はある程度行っているようである。
	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・前年の台風被害を受けての災害復旧工事が継続されていることから、今後も好況が維持できる。
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・今後しばらくは売上の好調な現在の状況が続く。
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・一時的な動きかもしれないが、周りの同業他社にやや人余りの気配が感じられる。
	x	-
雇用 関連 (北海道)		-
	求人情報誌製作会社（編集者）	・前年の台風被害以降、公共投資が増えていることから、地域の景気は良くなる。ただ、若年労働力の不足がここにきて表面化してきている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・景気の良さを実感できない地方都市においても人材不足が深刻なことから、地方創生の動きなどとあわせて今後の人材獲得の動きが活発になる。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・公共事業が積極的に発注されていることに加えて、観光客の入込が順調に推移することで、足元に明るさが出てくることになる。
	学校〔大学〕（就職担当）	・前年の新卒採用で十分な採用ができなかった企業が多いことから、今年は前年以上に選考スピードが早く、内々定出しも早くて多い。この傾向は夏も続くと思われる。
	人材派遣会社（社員）	・企業における人材不足は今後も継続する。また、夏に向けて、企業の販売促進、キャンペーン展開が行われるため、人材ニーズは一層高まることになる。企業の売上確保に向けた真摯な動きが感じられる。
	求人情報誌製作会社（編集者）	・製造系の求人が増加したのに対して、飲食系の求人が減少している。一方、これまで減少傾向にあった小売系の求人がやや回復してきているが、求人数は例年よりも少ない。このように業界ごとに求人数の増減の動きがまちまちだが、全体的には例年並みの水準で推移していることから、今後も景気は変わらない。

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・求人数が変わっておらず、これといった景況感の変化も感じられないため、今後も変わらないまま推移する。
	職業安定所(職員)	・今後も月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が続く。
	職業安定所(職員)	・新規求人数が増加傾向を示しており、採用活動が再び高まっている状況がうかがえる。
	職業安定所(職員)	・北海道新幹線の開業から2年目に入ったが、前年からの反動減が懸念される。また、水産食料品製造業は漁の動向に左右されることになる。
	職業安定所(職員)	・有効求人倍率が8か月連続で前年を下回ったことから、今後の動向を注視している。
	*	*
x	-	-